

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1270500570
法人名	レビーケア株式会社
事業所名	レビーグループホーム おゆみ野苑
訪問調査日	平成 19 年 10 月 29 日
評価確定日	平成 19 年 11 月 25 日
評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1270500570		
法人名	レビーケア株式会社		
事業所名	レビーグループホーム おゆみ野苑		
所在地 (電話番号)	千葉県千葉市緑区おゆみ野南6-48-2 (電話) 043-293-8080		
評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	東京都文京区本駒込3-15-10		
訪問調査日	平成19年10月29日	評価確定日	11月25日

【情報提供票より】(19年9月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 5月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	32 人	常勤	16 人, 非常勤 16 人, 常勤換算 9.4 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	軽量鉄骨造り	
	2階建て	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	80,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	300 円	昼食 450 円
	夕食	500 円	おやつ 食事代込み
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(9月22日現在)

利用者人数	11 名	男性	5 名	女性	6 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 75.8 歳	最低	55 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ちぐさ会クリニック 都賀デンタルクリニック
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

1. ホーム独自のアイデアによるお茶風呂入浴を実施しています。出がらし茶葉を利用した手作りの入浴剤は、利用者の水虫治療や予防だけでなく肌をつややかにするという効能があり、利用者に変喜ばれています。2. 3~4ヶ月に1回、ペットショップによるドッグセラピーを取り入れ、小さな動物との触れ合いにより利用者の心を癒し、精神的安定を図っています。3. 利用者の安全を見守るため、各階の通路にカメラを設置して利用者の挙動を映し出すモニターテレビが1回の事務室に取り付けられています。4. 通りを隔ててすぐに閑静な住宅街が広がっており、ホームの周りは緑と陽光に恵まれ、ご利用者の格好の散歩コースとなっています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>1.ホーム独自の運営理念を作り上げる。2. 利用者が日常生活で馴染みの物品を活用できるような工夫をする。3. ユニットの出入り口のロックを最小限にする。4. 利用者が献立を考え、買い物・調理まで取り組んで楽しむ機会を検討する。5. 職員のストレスを軽減するため、第三者の協力を得たり、同業者との交流を定期的に行う。6. 洗剤類の誤飲を防ぐための管理を検討する。第4項を除いてすべて改善されていますが、この改善項目は重度の認知症の利用者が多いこと、近辺に商店がないので、改善は困難と考えます。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者、管理者、その他の職員が全員で昨年度の外部評価を踏まえながら、自己評価の意義を理解し、今回の自己評価に取り組んでいます。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2月開催の運営推進会議の主な議題は地元の自治会長、民生委員等の行政関係者に対し、理解を得るためにホームについて自己紹介し、ホームに対する捉え方や感想を聞くことでした。現在、理解のあるボランティアが時々来苑する程度で、この会議の狙いどりにまだ機能していません。新興住宅街のため若い住人が多く、認知症やホームへの理解が得られにくい環境にあり、ホームの努力だけでは限界があります。この状況を克服するには、千葉市の住民へ積極的な協力の呼びかけや、介護相談員等行政関係者によるホームへの多面的な支援強化が望まれます。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族へ月1回の定期的報告(ホーム便り、金銭出納帳等)を送付し、本人が体調を崩したときは、都度その家族へ電話連絡しています。また、家族の来苑時には、本人の生活や健康状態について説明したり、た意見等を聞いています。しかし意見等を外部者へ表せる仕組みがまだしっかり出来ていません。家族会を年内に立ち上げ、家族会代表を運営推進会議の中心メンバーに据えて、家族が自治会や行政関係者等に率直に意見等を述べ、話し合っ、改善策を運営に反映させていくことが望まれます。</p>
重点項目 ③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>開設当初より自治会に加入し、自治会便りなどをホームへ回覧してもらったり、ボランティアをホームへ受け入れたりしていますが、ホームから逆に地域への積極的な働きかけが十分とは言えません。今後は、地域の理解と協力を深めるため、自治会へホーム便りやイベント案内等の回覧をしてもらったり、自治会や幼稚園や小学校等の行事に参加して地域との交流を拓ける努力を日々積み重ねることが望まれます。</p>
	<p>重点項目 ④</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念「麗老」(麗しく老いる)を作り上げ、玄関等の目立つ場所に掲げられています。しかしながらここで求められている「地域の中で馴染みのある暮らしを続けることを支える」という理念にまで至っていません。	<input type="radio"/>	職員皆で話し合っ、 “地域の中でその人らしく暮らし続けることを支える” というサービス概念を反映したホーム独自の運営理念を作り上げることを期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を理解し、理念を踏まえて日々介護に励んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設当初より自治会に加入し、自治会便りをホームへ回覧してもらったり、自治会の行事等に参加したりしていますが、ホームの地域への広報活動が地域の理解と協力を深める上で十分ではありません。	<input type="radio"/>	ホーム便りやホームのイベント案内等を自治会に持ち込んで説明し、自治会を通じて回覧していただいたり、幼稚園、小学校等の行事に参加したり、あるいは生涯学習として児童をホームに受け入れたりして地域との交流を拡げることが望まれます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	皆で自己評価や外部評価の意義を理解し、特に外部評価報告書を読んで、問題点を話し合い、具体的改善に取り組んでいます。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第1回の運営推進会議が2月に開催されましたが、その時は自治会や民生委員等の地元の方にホームの自己紹介行った程度で評価の取り組み状況等について討議されるまでに至っていません。	<input type="radio"/>	会議の議題として、認知症への理解、利用者の現状、介護の悩み、地域の理解と協力等身近な問題を取り上げて話し合い、自治会や行政の関係者の協力を得て問題の解決に取り組んでいくことが望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2名の介護相談員が月1度来苑され、職員の相談に乗ってもらって、サービスの改善に活かしています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族等へ月1度の定期的報告(ホーム便り、金銭出納帳等)を送付しています。家族の訪問時に本人の生活や健康状態について説明したり、また本人の体調がすぐれないときは、都度その家族へ電話で連絡しています。	○	この定期的報告の際に、本人の日常の生活ぶりや健康状態についてメモ等を加えることが望まれます。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に声かけをして意見等を聞くようにしています。又玄関に意見箱も備えています。しかし、外部者へ意見等を表せる仕組みづくりは出来ておりません。	○	家族会を年内に立ち上げ、家族会代表が運営推進会議のメンバーとして意見等をオープンに述べる事が出来るような環境づくりをしていくことが望まれます。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動はあまりありませんが、離職の場合は利用者へ“病欠です。”と説明してダメージが出来るだけないように配慮しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修はホーム内でも法人の全体会議でも実施し、職員をその段階に応じて育成しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉市のグループホーム連絡会に所属し、勉強会等を通じて同業者との交流を行っております。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスを開始する前に家族から本人の情報を聞き、アセスメント、フェースシートを作成しています。施設内見学等を実施し、本人からの要望等を確認し、様子を観察しながら且つサービスのイメージを持ってもらうといったゆっくりとした段階を追って介護につなげています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者との何気ない会話を大切にしたり、職員と利用者(男性)で草刈機を使い苑周辺の雑草刈り、草取りや畑作り、また利用者の経験、特質を活かして物作りを教わったりしています。日常生活の中で生活リハビリを兼ねて何かをすることで人生の喜びをもらいながら、お互い支えあう関係を築いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の異なる性格、趣味やこれまで生きてきた本人の経験や個性を尊重し、無理のないよう上手く予定に組み込んで創意工夫しながら個別支援を実現しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月一回の職員会議、全体会議での意見、家族、本人と関係者間の話し合い、面会時に直接家族と会話を行い、家族からの希望や苑に出来ない家族には電話で積極的に働きかける等して情報を収集しながら、介護計画に反映しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	実施期間は3ヶ月とし、変化が生じたり見直しがある場合は随時検討し、関係機関とも密に連絡を取り、現状に即した新しい介護計画を作成しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	中学生の訪問を受けたり、民生委員や介護相談委員が関わったりすることで、ホーム独自の支援がなされています。また、利用者の健康管理、職員のスキルアップや医療部分には柔軟な支援がおこなわれています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人の希望を優先していますが、内科の主治医による月2回の訪問診療と訪問看護師の週1回の受診や電話での相談も随時実施しています。体調の変化等見逃さないような柔軟な対応、支援策が講じられています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取ってあげたいと言う職員の意向で、すでに末期がん患者の看取りを経験しています。ターミナルケアについては、医師の月2回の訪問診療や家族の希望次第で事前に意向を汲み取り全員で方針を共有しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	業務日誌等には、相手を中傷するような記録もなく、利用者一人ひとりにはゆっくり、はっきりと親しみやすい言葉かけが実践され、幼児言葉を使わないよう管理者から注意を促し、個人情報、他人の目にふれない場所に保管しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本人の意向を尊重し、職員の都合に合わせず利用者の時間希望等を最大限取り入れペースに合わせて、利用者の気分体調を考慮しながら、支援を行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	懐メロの曲が流れる和やかな雰囲気の中でバランスよく職員の配置がなされ、細かい配慮の下で食事を楽しんでいます。支援ということで介助をさりげなく行っています。手作りをその場で提供し、利用者一人ひとりの残存機能を生かし職員と一緒に配膳、下膳、片付けを行っています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は男女で曜日が決められています。基本的に好きな時にも入浴できるように臨機応変に対応しています。入浴時には創意工夫もなされ、緑茶の効能を生かしたお茶風呂、リフト浴のサービスが提供されています。利用者に変喜ばれ、入浴の楽しみを最大限に提供され、入浴を楽しむ雰囲気作りの努力が見受けら		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生き生きとした生活が送れるように一人ひとりの個人目標が立てられ、食事の準備、配膳、下膳、片付け、洗濯物たたみや草取り等利用者の得意としている役割を最大限に尊重し、楽しみが味わえるような支援策が実践されています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周りの豊かな自然環境の特徴を生かし、天気の良い日は職員と共に毎日ホーム周りの散歩をしています。本人の希望やニーズを家族に伝え、家族の協力のもとで外出支援も行われています。また、外出の好きな利用者には、近くの公園や近郊にドライブ等に出かける支援が行われています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	過去に鍵をかけないケアに取り組んできたが、危機管理の関係上家族への説明も十分に行ったうえで電子ロックを使用しています。昼間は鍵をかけずレベルに合わせて出入りが自由になっています。利用者に対しては所在確認のチェックを行いながら安全管理に努めています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練、自主訓練を各々年1回づつ行っています。特に重要な避難経路表が目立つように通路の壁に貼ってあります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーバランスが計算された細かい献立を立て「私のプロフィール」にそって利用者個々にあった食事形態が提供されています。利用者の体調や症状等も十分に観察され、力に合わせた食事支援が行われています。また業務日誌とは別に食事摂取量、水分摂取量がきちんとチェック表に記録されています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には秋の草花が職員の手作りの大きな花瓶に生けてあり、居間全体に秋の光が射し込み、和やかな雰囲気を出してしています。廊下の壁にはホーム行きの写真等が飾られています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたテレビ、衣装ケース、馴染みの目覚ましや装飾品等が持ち込まれています。		